

鐘紡資料叢書 株主總會編<第1巻概要>

本書では、「日本の経営の祖」とも呼ばれ、鐘淵紡績を日本最大の企業へと成長させた武藤山治の演説に触れることが出来る。本書が提供する武藤山治の経営の一端を紹介したい。

本書が扱う内容は、大正9年(1920年)から昭和40年(1966年)と長期にわたり、その間、文章は、文語調の言い回し、促音の表記、句読点や段落における字下げの有無など、現代の文章になれている我々にとって、大いに読みづらい文章となっている。特に、原文では、カタカナ表記が主となっており、本書では、全てひらがなに変換している。また、漢字についても、人名、社内などは除いて、旧漢字を当用漢字に変換している。

本書が始まる10年前の明治44年(1911年)、アメリカでは、F.テイラーによる『科学的管理法』という本が出版された。科学的管理法とは、工場における労働者の経験や技能に基づく作業を、客観的・科学的に整理して管理する考え方で、「テイラー・システム」と呼ばれた。テイラー・システムは、ノルマとなる仕事量に対して、手順や使用する工具が標準化され、出来高に応じた成功報酬が決められるという、画期的な管理システムであった。武藤山治は、このシステムをさらに発展させ、精神面から労働の質の向上を目指した『精神的創業法』へと発展させていった。アメリカではテイラー・システムが提唱されていた大正10年(1920年)、日本では、細井和喜蔵による『女工哀史』が刊行された。本書は、この年から始まる。当時の武藤山治は、時間短縮について問題提起し、そのための工場の生産性低下にどのように対処するのか、さらには、株主への配当金の増減にまで触れて、見事に株主を納得させている。本書は、長期に亘って、一つの企業において行われてきた株主總會の「社長演説冊子」および「議事速記録」を時系列、歴代の社長の就任順に記述したものである。そこには、日本初の世界的大企業がいかに誕生したのかをうかがい知ることができる貴重な情報が存在している。

ISSN 1345-8620
ISSN 2185-503X



Research Institute for
Economics and Business Administration
Kobe University

研究叢書 78
鐘紡資料叢書
株主總會編
第 1 卷

神戸大学経済経営研究所

伊藤 宗彦 編

鐘淵紡績株式会社第七十三回定時株主総会に於ける会長武藤山治氏の演説速記	…	79
株主各位に謹告	…	89
鐘淵紡績株式会社第七十四回定時株主総会及臨時株主総会速記録抜萃	…	93
鐘淵紡績株式会社第七十五回定時株主総会速記録	…	107
鐘淵紡績株式会社第七十六回定時株主総会速記録	…	117
鐘淵紡績株式会社第七十七回定時株主総会速記録抜萃	…	125
鐘淵紡績株式会社第七十八回定時株主総会速記要録	…	131
鐘淵紡績株式会社第七十九回定時株主総会速記録	…	147

